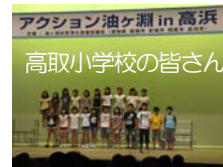




目次

- 「アクション油ヶ淵 in 高浜」を開催しました!
- 活動情報 9月のコメント
- 連載⑤
「油ヶ淵周辺のこんな所」
- 10月は「クリーン排水推進月間」です。
- 水質パトロール隊を取材しました。
- 連載②
蜆の呟記



アクション油ヶ淵 in 高浜
を開催しました!!

9月4日(土)に高浜市中央公民館において、「アクション油ヶ淵 in 高浜」が開催されました。

水質浄化に関する取組として、稗田川かるがも会、高取小学校の皆さんに発表をしていただきました。より良い水環境を未来に残すために、地道な活動を継続してきたその様子を、伺い知ることができました。

「アクション油ヶ淵 in 高浜」に来てくれてどうもありがとう! 最後のお楽しみ抽選会のきらず揚げを見事ゲットしてくれたかな? ぼくも食べてみたけれど、とってもおいしいね。シナモン味がぼくのお気に入りなんだ♪

さて、これまでの夏の暑さから一転して、秋の訪れを感じる今日この頃。夜空の中、いつも同じ顔ばかり見せるお月さま。天高く飛んで、いつかは宇宙からお月さまの裏側を眺めてみたいな。

あぶちゃん



ジョン・ギャスライト氏



稗田川かるがも会の皆さん



活動情報



●9月のコメント

・水量がやや多い。水の色がやや緑っぽかったが透視度は高かった。

(準) 沢渡川

・ジャンボタニシの卵が多い。ドジョウを一匹見つけた。(上池左岸・流入農排)

・昨夜雨が少し降った様子。見た目はあまり濁っていない。足元の草が刈ってあって良かった。空の色が秋の様に澄んでいた。

(下池・西岸(病院横))

・水深は15センチ程度。水がきれい、水藻が生きていた。カワナも沢山繁殖していた。(準) 道田川・上流

連載⑤ 「油ヶ淵周辺のこんな所」

今回は、少し目先を変えて、私たちが油ヶ淵に出かけた際にお世話になるランチのお店を紹介してみます。「ふちも」紙上でお店の宣伝みたいなことをしてもいいのかなあ。でも、お店の名前を伏せては情報としての価値がないし、で、思い切って店名も載せちゃいます。

まずは、碧南市から。名鉄新川町駅から東へ歩いて約5分の中華料理「新龍」。「キネマ通り」という商店街(ん? 商店街かこは)にある、昭和の香りがたぷりのお店です。特筆すべきはその量。

ランチの野菜炒め、揚げそばは大皿からはみ出しそうにてんこ盛りです。元氣なおばあちゃんご主人夫婦も昭和の雰囲気づくりに一役買っています。

次も碧南市の「高瀬」。西端小学校の近くです。魚料理主体の和食のお店で、壁にはどっかいタイの魚拓が飾られています。平日ランチの割子弁当はバラエティ豊かなお料理の盛りつけがとってもきれいです。釣りの好きのご主人が出されるお刺身

は特に美味。思わずお酒が欲しくなります。

最後に、安城市立丈山小学校近くの「ヤマコ」。油ヶ淵周辺を取材して腹へこの私たちがついつい釣られて入ることの多い中華料理店です。70円のランチはどれも期待以上にボリュームたっぷり。皿に山盛の中華風エビ天(ぶらや鶏肉味噌炒め)といった主菜以外にも、カニ玉やたっぷりのサラダが。こちらはビールが欲しくなりますね。

取材の楽しみはやっぱりランチ。みなさんからの油ヶ淵周辺のランチ情報をお待ちしています。(川村)



碧南市「新龍」



碧南市「高瀬」



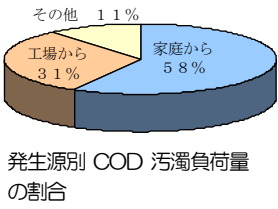
安城市「ヤマコ」

10月は クリーン排水推進月間 です。

本県では、10月を「クリーン排水推進月間」として定め、生活排水対策を促す取組や実践活動を県民運動として進めています。古くから農業や水産

業など、産業活動が活発に行われてきた本県ですが、特に、この数十年で生活様式が一変し、私たちの水の利用の仕方などが変化したため、自然に大きな影響を与えてしまっています。

伊勢湾・三河湾に流れ入る汚濁物質の量（＝汚濁負荷量）のうち、58%が炊事、洗濯、風呂、トイレなどの生活排水に起因するものです。きれいで豊かな川や海を次の世代に引き継ぐためには、下水道や浄化槽などの生活排水処理施設の整備を進めるとともに、台所において水切りネットを使う、残った食べ物や油を流さない等、私たち一人ひとりが家庭から出る汚れを減らすよう心がけることが大切です。



COP 野田 環境調べ隊 取材しました!



小中学生が身近な河川や水路で水質などの状況を調べる「水質パトロール隊」に、たくさんのお誘いをいただきました。

今回は、名古屋市立野田小学校「COP野田環境調べ隊」（4年生68名）が7月7日に実施した水質調査を紹介します。

この日の調査地点は、学校近くの荒子川です。川へ向う途中、黒い大きな物が水の中に潜りました。カワウです。こんな街中の小さな川にまで現れるのは驚きです。

はじめに、手作りのペットボトル透視度計で透視度の測定。続いてパックテストでCODの測定。そして、水生生物調査。



二人一組で協力し、みんな真剣に、夢中になって取組んでいました。特に、奥の方の水も調べようと、ペットボトル製の採水バケツを何度も投げては採水しているのが印象的でした。

ちなみに「COP野田環境調べ隊」は、名古屋でCOP10開催にちなんで名づけられ、一人ひとりのオリジナルマークも作ったそうです。調査のほか

水処理センターを見学したり、「水の大切さ」について考えたりと、水について幅広く学習しています。（鈴木）



油ヶ淵の歴史

しじみ つぶやき
蜆の呟記 一

今回は第二回目として、油ヶ淵のある伝説の一つ「竜燈」をご紹介します。

油ヶ淵が今よりずっと広く、まだ衣が濡とつながっていた時代のことである。今の応仁寺の前に、母子二人貧しく暮らしている漁師がおった。ほかに身寄りもなく、岬の一軒屋でに住んでいた。息子は評判の親孝行者、母は非常に子煩悩で貧しいながら平和に暮らしていた。母は、息子が漁に出ている間、たえず子供の身の上を心配していた。闇夜など、せめてこの小屋の前に舟から目標になる燈火を点じたいと思っても、かよいい母の手ではそれもままならぬ身であった。どうにかして孝行な息子のために闇夜に一筋の光明を与えたいと、神や仏に日夜祈った。そ

の甲斐あつてか、いつからか息子が漁に出た夜は、岬の端に明るい燈明が輝くようになり、母の喜びはたとえようもなかった。

ところが、西端の油屋へ何処の者とも知れない若い娘が毎日七つ下り（五時頃）に、小さな油つぼを掲げて油を買いに来る。村の若者がひそかに後をつけて見たが、岬の端まで行くとその影を見失った。はてなと思うとたんにぱっと輝く燈明に驚かされて引き返した。きつと淵の神様が母子のために娘に姿を変えて現れたのであろうと評判であった。あまりの不思議さに、誰からともなくこの岬を油が崎というようになり、そして幾年か後には、油ヶ淵とよぶようになったと伝えられている。

油ヶ淵の名前は、ここからきているんだね。地名の由来を知ると、その土地をもっと好きになれるね!



油ヶ淵流域市民モニター ふちもに情報局 vol. 36 平成 22 年 9 月発行

発行
愛知県環境部水地盤環境課
調整・生活排水グループ
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目 1-2
電話052-954-6219(ダイヤルイン)
Mail:mizu@pref.aichi.lg.jp